

平成29年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

Kibi Kibi ふれあい交流キャンプ

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

不登校傾向にある中学生の家族を対象とし、自然体験活動を通して社会性や協調性を育み、子育てについて考えたり親子や参加者間、関係機関等との人間関係をつないだりできるように支援する。

2. 事業の概要

（1）期日

第1回 平成29年 9月24日（日）日帰り

第2回 平成29年11月12日（日）日帰り

第3回 平成30年 1月27日（土）～1月28日（日）1泊2日

（2）参加者

① 募集対象・人数

現在不登校（不登校気味）の中学生を含む家族 8家族

② 参加者数

第1回 1家族 2人

第2回 6家族 16人

第3回 9家族 19人

（3）講師等

第1回、第3回 （一財）河田病院 臨床心理士 山下 弥生 氏

第2回 津山市教育相談センター 鶴山塾 塾長 土居 勇人 氏

第3回 遊木皆（Tree+ing Club）

（4）企画・運営のポイント

① 昨年度の参加者から、家族が多かったり参加回数が増えたりすると、参加費も多くなり、参加しづらいとの意見を聞いた。そこで、今年度は、地元企業からの寄付金を参加費の一部にあて、参加者の負担を軽くするといった運営方法をとった。

② 今年度も、参加対象を岡山全県で実施し、県内の適応指導教室と連携をとりながら事業を進めた。その他、当所のホームページや当事業の推進委員の所属先でも、チラシを配布するなどの幅広い広報活動を行った。

③ 今年度も親子別プログラムを取り入れ、保護者が日頃の子育ての悩みを共有したり相談したりする場を設定した。そこでは、不登校生徒との関わり方についてのアドバイスや、適応指導教室の実践紹介を講師の方々をお願いした。

④ 専門分野をもつ有識者の方を集めた推進委員会を開催し、不登校生徒の現状の

把握と、不登校生徒とその保護者が参加しやすく、かつ効果的なプログラムの企画に助言をいただいた。

- ⑤ 第3回のクッキングタイムでは、昨年度の保護者からの意見を反映させて、家庭の冷蔵庫にある残り物で中学生が作れるメニューとして、チャーハン・コンソメスープ・ピザトーストを設定した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

第1・2回

9月24日(日)・11月12日(日)			
9:30 10:00	受付 開会式 アイスブレイク 選択活動①： <u>マウンテンバイク・樹木ビンゴ・釣り・カプラ</u> <u>・ハイキング</u> (親子共通)	13:00 15:30	選択活動②： <u>マウンテンバイク・樹木ビンゴ・釣り・カプラ</u> (中学生) 情報交換会(保護者・講師・職員) 閉会式
12:00	昼食		

第3回

1月27日(土)		1月28日(日)	
13:00 13:30 14:00	受付 開会式 アイスブレイク 選択活動①： <u>ツリーイング(ロープクライミング)</u> ・マウンテンバイク・樹木ビンゴ・カプラ・ハイキング (親子共通)	6:45 7:45 8:00 9:00 10:00	起床・洗面・清掃 朝のつどい 朝食 片付け 準備 クッキングタイム(中学生) メニュー：チャーハン・コンソメスープ・ピザトースト
14:30 17:15 17:30 18:30 19:00	フリータイム 夕べのつどい 夕食 休憩 選択活動②： <u>星空観察・カプラ・ボードゲーム</u> (中学生)	12:00 14:00	情報交換会②(保護者・講師・職員) 昼食 休憩 片付け 閉会式
21:00 22:00	入浴 就寝		

*下線部分は、選択活動のうち、実施した活動

(2) 活動の様子



【アイスブレイク】



【マウンテンバイク】



【いかだ遊び】



【ロープクライミング】



【雪遊び】



【クッキングタイム】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① なかなかできない自然体験、ツリーイング、仲間との共同活動を先生やボランティアの方々とできてよかったです。
- ② 支援スタッフがマンツーマンで付く形ではなかったので、それぞれの子供が自由な動きをしている気がしました。これもいいなと思いました。
- ③ 家族5人で参加すると、かなりの金額になるため、参加費が半額以下だったのは、とても助かりました。
- ④ 他の保護者も自分と同じ思いを抱えていたことを知り、とてもうれしかった。他の保護者から、我が子の様子を伝えてもらうことで、改めて我が子の成長に気づくことができた。

(3) 成果

- ① 参加費を寄付金で半額以下に設定することで、参加家族の経済的な負担がかなり軽減された。特に、人数の多い家族には、経済的にも精神的にも負担が少なくなり、感謝された。
- ② ボランティアの人数が、時期的なこともあって少なく、マンツーマン体制がとれなかった。そのおかげで、子供たち同士の関わりが広がったと、保護者が口々に語っていた。
- ③ 第3回で実施した保護者情報交換会は、日頃情報交換をしたくても話す場がなかったという保護者のニーズをとらえることができた。また、翌日の講師を囲んだ情報交換会では、前日の内容に関連した我が子の悩みについて、講師よりわかりやすく的確なアドバイスをいただき、保護者にとっては非常に有意義な2日間であった。

(4) 今後の課題

- ① 第1回は、県の不登校支援事業と日程が重なっていたため、参加家族が非常に少なかった。次年度は、県と連携し、日程を調整しながら進めていきたい。また、今年度は積雪があったため、参加者の送迎が懸念された。次年度は、開催時期も合わせて検討したい。
- ② 今年度は、参加費の一部を寄付金でまかなうことで、参加者の負担をかなり軽減できた。次年度も、できるかぎり参加しやすい体制を模索していきたい。

担当：企画指導専門職 徳永 正樹